

(技術名)「スワルスキーカブリダニを利用したマンゴー版天敵利用マニュアル」の作成							
(要約) マンゴー栽培における重要害虫である <u>チャノキイロアザミウマ</u> に対して、天敵製剤である <u>スワルスキーカブリダニ</u> の利用を中心とした <u>防除体系</u> についての <u>マニュアル</u> を作成した。							
農業研究センター・病虫管理技術開発班					連絡先	098-840-8504	
部会名	果樹	専門	作物虫害	対象	マンゴー	分類	普及
普及対象地域		沖縄県全域					

[背景・ねらい]

チャノキイロアザミウマは、マンゴーの新葉や幼果を加害するマンゴー栽培における重要害虫である。本県のマンゴーで発生するチャノキイロアザミウマに対しては効果の高い殺虫剤が少なく(普及に移す技術、2018)、開花期には受粉昆虫を利用するために化学合成農薬の散布も難しい現状がある。これらのことから、化学合成農薬主体の防除体系から、天敵製剤であるスワルスキーカブリダニを中心とした防除体系へと移行しつつある。しかし、スワルスキーカブリダニを用いる新たな防除体系は、これまでの防除体系と考え方や内容が大きく異なることから、現場での指導、普及にあたってはこれらをまとめたマニュアル作成への要望が高い。そこで、これまでに行ってきたチャノキイロアザミウマの生態、各薬剤の効果試験およびスワルスキーカブリダニを用いたチャノキイロアザミウマ防除に関する試験データを基に、スワルスキーカブリダニによるチャノキイロアザミウマ防除マニュアルを作成する。

[成果の内容・特徴]

1. 作成したマニュアルは、「1天敵について」、「2マンゴーにおけるチャノキイロアザミウマ」、「3マンゴーにおけるスワルスキーカブリダニの利用」、「4スワルスキーの利用事例」、「5天敵利用型防除スケジュール」、「6コラム」、「7IPM用語集」、「8農薬の天敵およびミツバチに対する影響表」の8項目22ページから構成されている。
2. スワルスキー利用時の注意点や、特に重要となる放飼タイミングを含めた利用方法および成功事例と失敗事例の具体的なデータ、各地区の農業改良普及センター(課)から提供された実際に農家で起こった様々な失敗事例とその対策、栽培管理も含めた天敵利用型防除スケジュール、マンゴーの花に発生するアザミウマ類の簡易な見分け方についても記載している。

[成果の活用面・留意点]

1. 本マニュアルは、マンゴー栽培に関わる県関係機関、団体等の指導者を対象としており、これら指導者に幅広く利用されることで、マンゴーの安定生産ならびに品質向上対策に活用できる。
2. 本マニュアルは、農業研究センター病虫管理技術開発班で入手できる。
3. 本マニュアルの内容、特に天敵利用型防除スケジュールについては農薬の変更や新たな記載事項が生じた場合は改訂される。
4. 本マニュアルに記載されている農薬の登録内容はマニュアル作成時の情報に基づいており、登録内容が変更される場合があることから、使用時には最新の登録内容を必ず確認する。

[具体的データ]



図 作成したマニュアルの表紙 (左) と目次 (右)

[その他]

課題 ID : 2015 農 004、2018 農 008

研究課題名 : 先進技術を活用した総合的病虫害・雑草管理技術体系の確立

予算区分 : その他 (沖縄型総合的病虫害管理技術(IPM)推進事業)

その他 (化学農薬削減に向けた病虫害防除技術推進事業)

研究期間 (事業全体の期間) : 2015~2019 年度 (2015 年~2020 年度)

研究担当者 : 守屋伸生、貴島圭介、喜久村智子、秋田愛子、上里卓己

発表論文等 : 守屋ら (2018) 応動昆. 62 : 257-261、守屋ら (2016) 第 26 回天敵利用研究会、守屋ら (2017) 日本応用動物昆虫学会第 61 回大会、守屋ら (2018) 日本応用動物昆虫学会第 62 回大会、守屋ら (2018) 沖縄農業第 57 回大会、守屋ら (2019) 日本応用動物昆虫学会第 63 回大会